



新國圖志通解

三

特別
L9
3099
2



129
3099
2



新國圖誌通解卷之二

世間日用の物地産に從はざるに及ばず而して至要なる者金銀銅鐵鉛錫の類に如くはるる曩時金礦甚ど少し邇來始めて知る亞羅拉既俺山の東北駕羅連南駕羅連磁治亞典尼西亞刺罷麻等の部皆之あり清の道光四年七月甲申の年取所の金と計るに估價銀五千員に過ぎ五年に則ち一萬七千員六年二萬員七年二萬一千員八年四萬六千員九年十四萬員十年四十萬六千員十一年五十萬員十二年六十七萬八千員十三年八十六萬八千員十四年八十九萬八千員銀と銅及



び水銀スイギンとい則ちスナハ或アルヒあり或ツツいり鐵スナハの則ちカク各處シヨ繁
 多タありて用ヨウは勝タヘを惟タシ錫スバ及オヨび各カク項テウ珍チン寶ホウ甚ハナハど稀スチ一スミ煤炭スミ
 の則ちスチ邊ベシ西シ耳ル文フ等トクの部ブリ良リありて且カッ多オ一ソ其ハジ始チめ地チ曠ヒロ
 く人ヒト稀スチく樹ジュ木モク叢ソウ茂モ一人ヒト只ヒト木キを取スて煤スと取トらざ今イマの
 則ちエニ煙クワ火ヒ日シ又シ繁ゲ一ジュ樹モク木マ前マ又ゼ減ゼぜど煤ス炭スミ愈イ昔キより旺サカ
 たり鹽シホの則ちシホ三ソ面ンの海ウミと煮ニる且カッ山サン中チウ鹵シホ池イケ及オヨび鹵シホ石イシ
 あり亦マタ鹵シホと爲ナスべ一サ更ラ一シ山サンあり其シ水スイ藥ヤクと作ナるべ
 中ナカ又マタ油アブラ氣ケあり竟ツイ又トモ燈トモと燃トモ一モ物モノと焚タくべ一コレ此スナハ乃チち土ツチ
 産物サンブツ性セイの異コトちる者モノなり凡オヨ金キン銀ギン鉛ナマリ銅ドウ鐵テツ煤シホ鹵シホ中チウ華カ例レイ禁キン
 して私シ開カイと許ユルさざ惟タシ西セイ國コク人ジンの樹ジュ木モクと取トと准ジを約オヨソ

海ノ一

百三十餘種あり高さ約三丈餘而して至高シイカワなる者モノ則スナハ
 ち椽木テウボク又マタ如コトくいゝ間マ々マ八九丈チウなる者モノあり之コレを以シテ
 て船フネを作り柱ハシラと作る甚シど美ミちり其シ木キの四シ十ジュ四シ種シユあ
 り次ツギの則ちスチ核ガイ桃クウ亦マタ十ジュウ様サマあり次ツギの則ちスチ楓フウ樹ジュ高カウ茂モ一ヒト
 汁シユ甘カンく糖ドウと煎ニるべ一ヒト年ネン約オヨソ糖ドウ數スウ千セン石シユ美ミ蕪ソ里リ部ブ内ナイ一ヒト
 株シユ最モトも大オホちふあり身ミの圍カウ三サン四シ丈チウ六ロク尺シツ次ツギの則ちスチ樺ヒラ樹ジュ尤モト
 も觀カン瞻テン壯ソウなり其シ皮カ瓦カワラ又マタ代カへ屋ヤと蓋オホひ舫フナと作り河カ
 渡ワタるべ一ヒト土ド人ジン用ヨウて小コ舟フネと作り輕カウ捷セツと常ツチ又マタ異コトなり
 人の背セ又マタ出デづ負フして水スイと渡ワタる既スデ又マタ迅ハヤ一ヒト携カ帶タイ又マタ使シ
 又マタ蠶サニ桑ソウ以シテ綢カウ緞ケンと爲ナスる其シ餘ヨ飛ヒ潛セン動ドウ植チツ他タ國コク又マタ有アルる

所の者新國皆之あり
 開國の初め知らず識る工作の事と諳んぜど或は
 人力あり物本を或は人力物本ありて知識る皆
 器と成し難し必だ三者兼備して物始て成る即ち中
 華の絹織磁器の如き既又人力物本あり又知識あり
 何ぞ其精美と怪まん中華の匹頭の如き已は人力知
 識あり獨り物本あり何ぞ其成るると怪まん中華の
 時辰標又至り人力物本ありと雖ども知識る亦何
 知識るるまば則ち他國の知識者と延さ以て教習し
 或は知識ありて物本るるも亦別國又往き運載し或

海三ノ二

知識物本ありて人力るるまば則ち物力を以て之は
 代ふ水力火力獸力の如き皆是昔し新國の南方棉花
 稀少かり且つ一車一機及び一人紡織を成就し易か
 らむ故に棉價最も高し清の嘉慶二十年間我國の文
 又近り國人知識日又廣し地毎に車數十架を置り人
 力を用いて水力を以て運行し數十車の花を紡ぎ
 一女児を以て之を監らるる布を織り毎地機數十
 張を置り人力を用ひむ水力を以て旋繞し數十機の
 布亦惟一小女工を督らるるのを茲に一紡織所あり内
 二紡花車一萬五千架あり毎日能布を織り四千丈共

ハカ
計る八百人男一百。女七百。一女毎月の工銀十二元
より二十一元又至る等しうらむ内又一總管の有す
る所出入の買賣と理と其工銀毎年二千元商主の
贏る所の息至まれば則ち十の一の故又近日棉の
價日又賤し清の乾隆五十五年我國の寬政前毎年棉
花未だ三萬八千介ありざる者より清の道光五年間
又至り毎年多き二萬七千介又至り估銀二千七百萬
圓五分の一と留めて本國自用又在り餘ハ皆別國又
販賣と清の道光六年間より今又至り棉花日又増
之と二十年前の價又比とまれば則ち已又三分の二と

海三

減を然るよ今の高を為者利を得るに及て二十年
前より重し是を以て布と織と日又多し此より前多
く苧蘿布と用ゆ棉花日又増より苧蘿布日又減ど大
小呢又至ては則ち羊毛又資を故又羊と牧る者亦
少らうらむ此物英吉利より始む而して國人之は効
ふ究又英吉利の精又如故又土人本國の呢と買ど
今又至まれば則ち水力を用ひて之を爲る益々巧ま
益々多し並又別國又流販するも亦人力を用て之を
爲る者あり留めて以て自ら用ゆ其水力を以て爲る
者則ち人又賣與するなり磁器の如き國內其泥あり

と雖ども惟制ハ中華の巧の如きと能く今始て略あり書板ハ則ち極めて多し皆刊板を用ひざる鉛字の活板と用ゆ故に字と鑄紙と制し書と印し三等の人甚ど多し

美理哥出て外國に商する者其始め極めて少し今已に蕃盛を清の乾隆五十五年我國の寛政共計る外商本利銀一千九百萬員清の嘉慶元年に至るは則ち六千七百萬其貨物魚油獸皮牛羊猪馬煙棉花五穀等の類は過ご工作ハ則ち鐵器磁器木器玻璃器あるの國中關稅甚ど少し貨と入るは論なく貨と出るは皆重歛

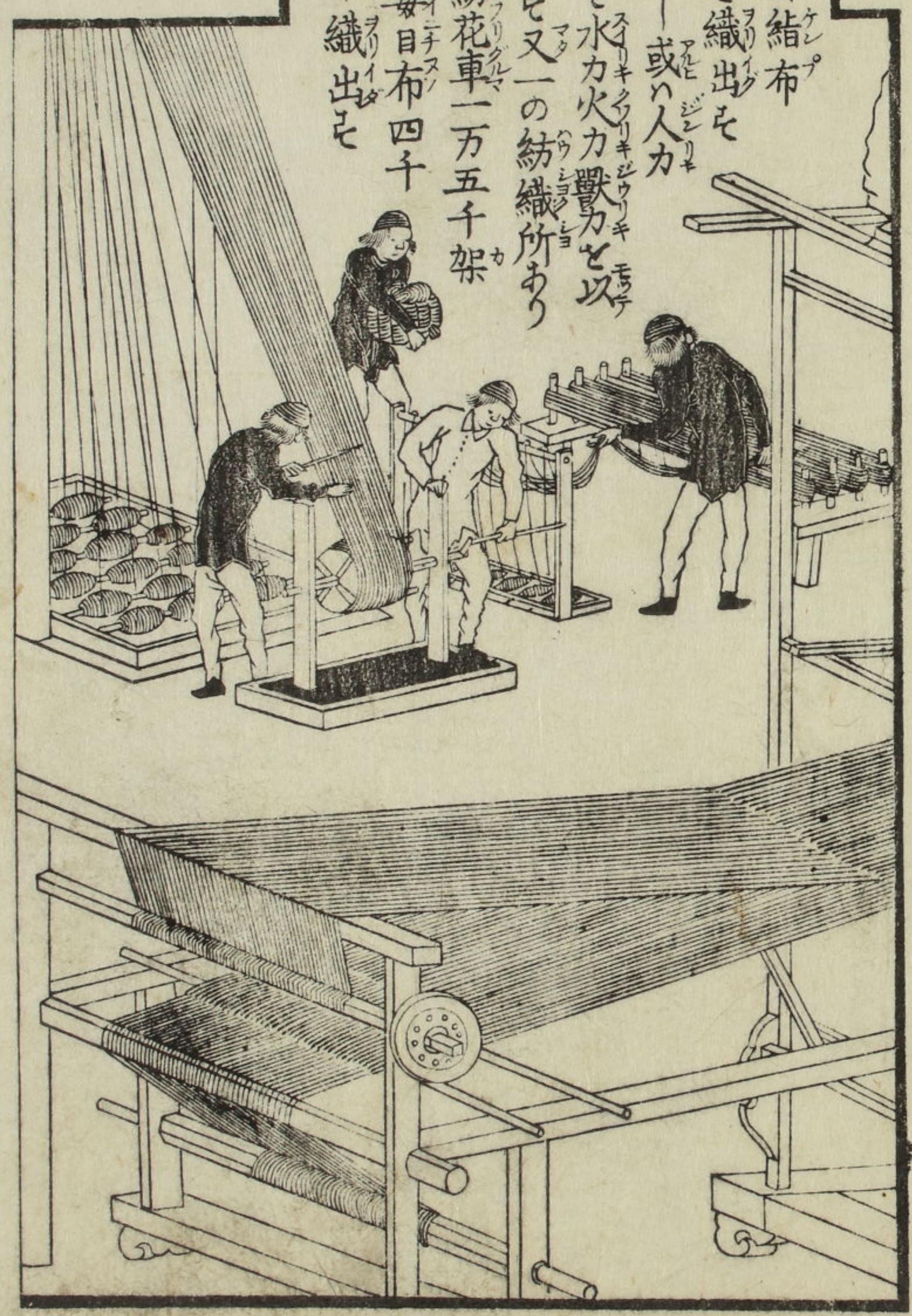
海二四

なり然るは本國に在て交易する者則ち南洲數國は過ご歐羅巴洲内に在てハ則ち英吉利法蘭西葡萄牙西班牙破魯斯瑞典鄂羅斯等の國あり亞非利加洲内に在てハ則ち埃及多國あり亞細亞洲内に在てハ則ち都耳基回印度葛刺巴小呂宋暹羅大清等の國あり其初め大清に至ることを究むは則ち清の乾隆四十八年我國の天明に在て始む此より日一日より盛なり清の道光十四年我國の天保本國入口の船五千六百二十八隻外國入口船三千九百五十三隻本國出口船五千八百八十六隻外國出口船四千零三隻

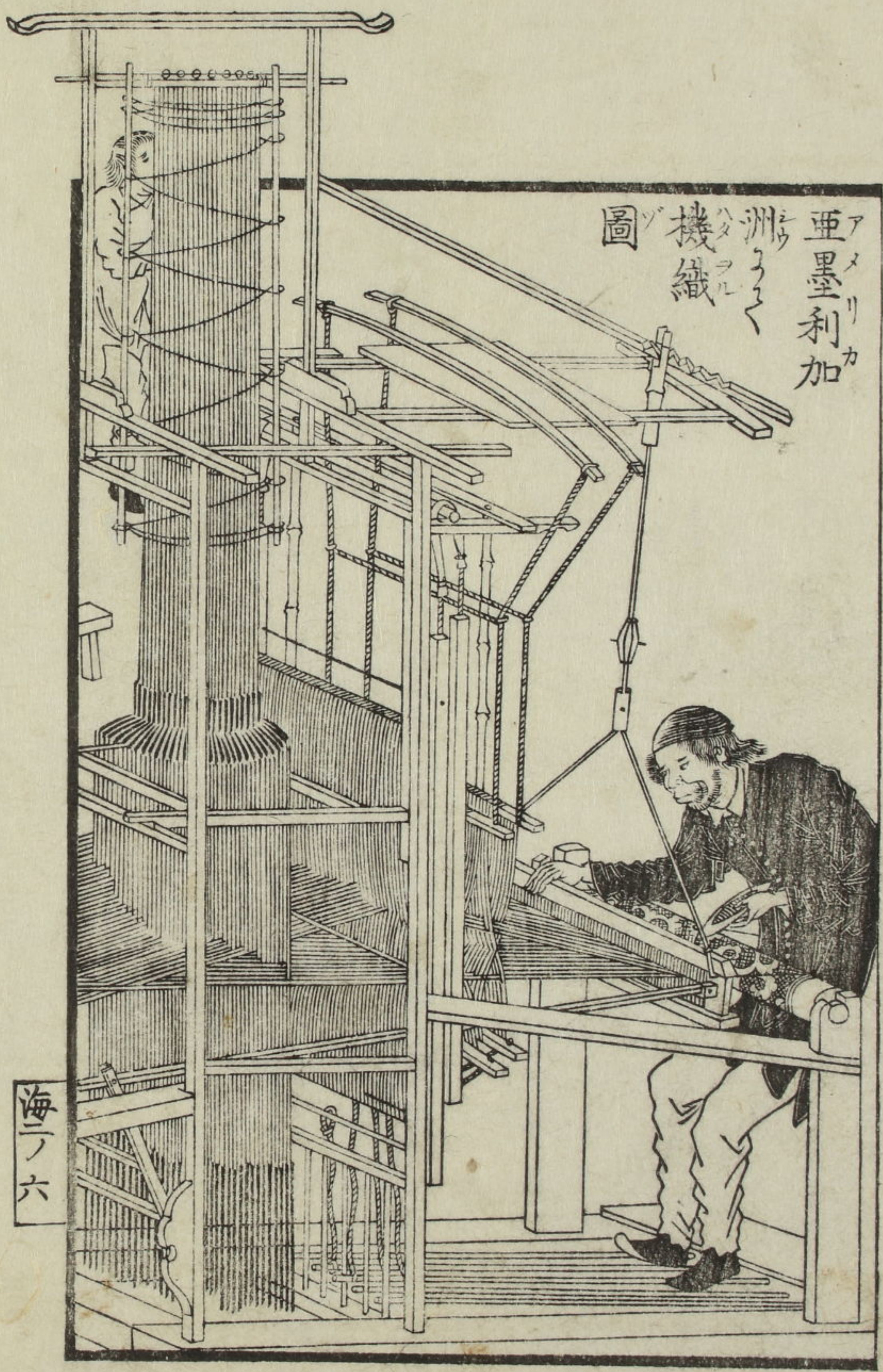
マイチン^{ズウ}グ^シミナ^{サノ}ホウ^ク 毎年増減皆冊報あり清の道光十三年一千八百八十八
 隻内大船六十五隻一載る所の貨道光十四年變價銀
 約二百萬山中の物變價銀約四百五十餘萬屠宰牲口
 變價銀約三百餘萬農圃の物變價銀約八百餘萬棉花
 變價銀約五千餘萬煙變價約六百五十餘萬工作の器
 變價約七百餘萬共又計る變價銀約一萬々餘通計出
 口の貨惟棉花を最と道光十五年售出百三十六萬
 六千五百九十九包十六年百六十三萬六千五百五十
 九包每包約價銀七十員其銀萬有一千五百五十五萬
 九千一百三十員上年每包約六十五員本年價稍昂一

二年と以て相比さるるハ則十六年の十五年より多く
 二十七萬包俱外在り運回の貨約銀一萬二千五
 百餘萬員首領最も貿易日繁と喜ぶ故に數款貨物
 關口と出入するに税餉と庸ゆるて母と者あり
 美理哥國都城の官あり各部落の官あり各部落の内
 一首領一副領議擬人員定數を公選事と議を或ハ
 十餘人或ハ數十人定めたり各省又一公堂と設け首
 領副領及び士人事と議するの所と爲る事大小と
 く必須く各官合議一然後准行をべし即ち咸允せざ
 るハ亦十人の中六人合意あるを須ち然る後行べし

此國又結布
 木綿と織出を
 事夥し或は人力
 と用む水力火力豊力を以
 運行を又一の紡織所あり
 内は紡花車一万五千架
 あり毎目布四千
 丈づつ織出を



亞墨利加
 洲
 機織
 圖



海ノ六

本省の官ハ本省の民より選擇公舉一都城内一統領あり王と為り一副領佐と為り正副統領亦各人選擇小より省毎二人と擇び都城に至り合せて事と議する閣と為り又幾人と選ひ合せて選議處と為り統領毎年各省餉項と收心庾支へ貯へ濫用ると得ざると除く外毎年定例祿二萬五千圓と享く若三十五歳以上は非ぞ及び本地の生る在る者皆此職に任ざると能く例四年と以て一任とを期満まれば又選ぶ如く賢の代るべき者をもて公舉復び任若し四年未だ満ざらば或は己の身没し或は自ら

海ラ七

任と解とまれば則副統領と以て之は當つ副統領願はざれば則ち議事閣の首と推を若し亦願はざれば則ち選議處の首と以て護理を設終る人の此職は當ると願ふと無まれば則ち吏政府文と各部の首領は移し遍く士民は示し速く舉む統領も亦民の選舉は由る亦四年一任祿と享ると毎年五千員司る所事無まは事と議するを首と居るは過ざるのを議事閣と選議處とありて皆毎年十二月内の初め礼拜一日と以て齊しく都城に集り公所會議を議事閣の職部毎二人あり二十六部と計るは共五十二人選議處

共二百四十三人議事閣五十二人と以て分て三等
と爲て二年と以て期と爲て輪退とる後復と新者と
擇ぶ是と以て等毎又六年と以て一任と爲て或は先
或は後又過ざるの又定例年三十以上又及ぶ者
此職又當る能くは議事處の則二十五歳以上と以
て例と爲て二年一任と爲て期満り別又選ぶ十二月
初禮拜の一日と以て齊く集り會議を凡國中農務工
作兵丁貿易賞罰刑法來往賓使基橋修築とるの事皆
此時之と議を吏政府首領毎年俸六千員亦左右事と
佐くる者幾人あり戸政府之の如く兵政府の首は則

幾百人あり以て之と佐く廉俸も亦之の如く別又水
師兵部あり惟専ら兵船と理を亦事と佐くる數十人
あり毎年廉俸亦之の如く礼政府數人之と佐る又過
ど毎年廉俸四千圓驛政府各部落來往文書と總理と
驛と各部衙要又設く如く書札某の處又寄をふこと
あまは則ち路の遠近と以て程費の多寡と計る其銀
毎四季と以て包封して驛又送る工食銀亦驛政府よ
り發給を政府廉俸毎年亦六千圓國の大政三あり一
は則會議制例二は則ち衆論一恪遵せしむ三は則
ち其遵はざり者と究問を是と以て國都一察院あり

内共ニ七人毎年正月と以て齊く集り人の何ニ因て
法律ニ遵ハルハの故と究ミ審み畢ル或ハ二三月
然後家ニ回シ其各部亦分て七院と設ク毎年四季と
以て齊く集リ例と守ラズ者と究問を但審官と為
スハ制例と會議スル能ハル制例と會議スル官ハ
亦審問と兼攝スル能ハルガ方新國制例五あり
一と國例と云二十六部通行スル所と云二と部落例
と云各部同トウゴト三と府例と云每府亦同トウ
ト云惟斯ニ生ル者ハ之と守リ四と縣例と云各縣自
其規と立ツ各民自ラ其制ニ遵フ五司例と云亦司

より自立惟屬スル所の者之ニ遵フ此五例中又小ハ
大と抑ラズ能ハル國例ハ乃チ都城議事閣ニ會議
ト各部ニ分發シ今各大典と將て悉ク左ニ例ト
一歳征糧餉の有る所動支各項皆餉内ニ於て撥發ス
一國幣敷を必ズ會議一預め爲ニ籌リ辨免を臨時措
据と致ス
一各國と貿易一各部交通スル即チ本土蠻人皆同一
體ナリ
一流民其寄居籍入ると准セバ以て失所と免を
一驛と設け公文書信と傳遞を時と以て其橋道路と

修を
 一局と設け銀と鑄る務めて輕重多寡と權衡一以て
 畫一歸を並ふ番銀と偽造を嚴禁と
 一人の教へ六藝と習學せしむ如く六藝中衆を超る
 者あり則別な獎賞と予へ或は能く自ら新制と
 創む前人の及ぶ所を開き今人の效ふと樂む所
 と爲者も亦之と獎賞を
 一各部察院と立つ以て民間の事を審判を或は三部
 又一と立或は二部又一と立つ部分の大小と視て
 酌議と

海ヲ十

一海賊剽劫と防ぐべし如く捕へ獲るとあるは本國
 外邦と論なく必だ例と照して罪と治む或は謀反
 叛逆及び外國に在て事滋まるとあるは尤も必例と
 照して嚴辨と
 一如く外國欺凌を遣ふ統領必先づ萬民を曉諭を備
 へ便ち和と講せざる干戈と動らざることを致す務めて
 必だ踴躍して前に向ふ若くは兩相盟會せば取ら兵
 と戦むべし
 一錢糧と以て民を招き陸路水路の兵と爲るを必嚴
 其技勇と拔を

一水陸兵士務めて約束に遵ひ騷擾を得ば
 一國攻戦あり國中官兵を除く外凡そ民皆て仇を同
 ふして敵愾あり者即ち議して加糧を給を
 一専ら法を設け以て都城を治む各外部を治むと同
 トかりぞ
 前例十四條如し遵はざる者あまは則ち法を設け
 以て之を引導し此例を除く外首領も亦意を任せ
 自ら為る能はざらん凡統領饋送の受べざる者又遇ふ亦
 必ぞ之を議事閣及び選議處に商り大小文武を
 て皆倣行を得しむ國人律例以て重とを徒に統領

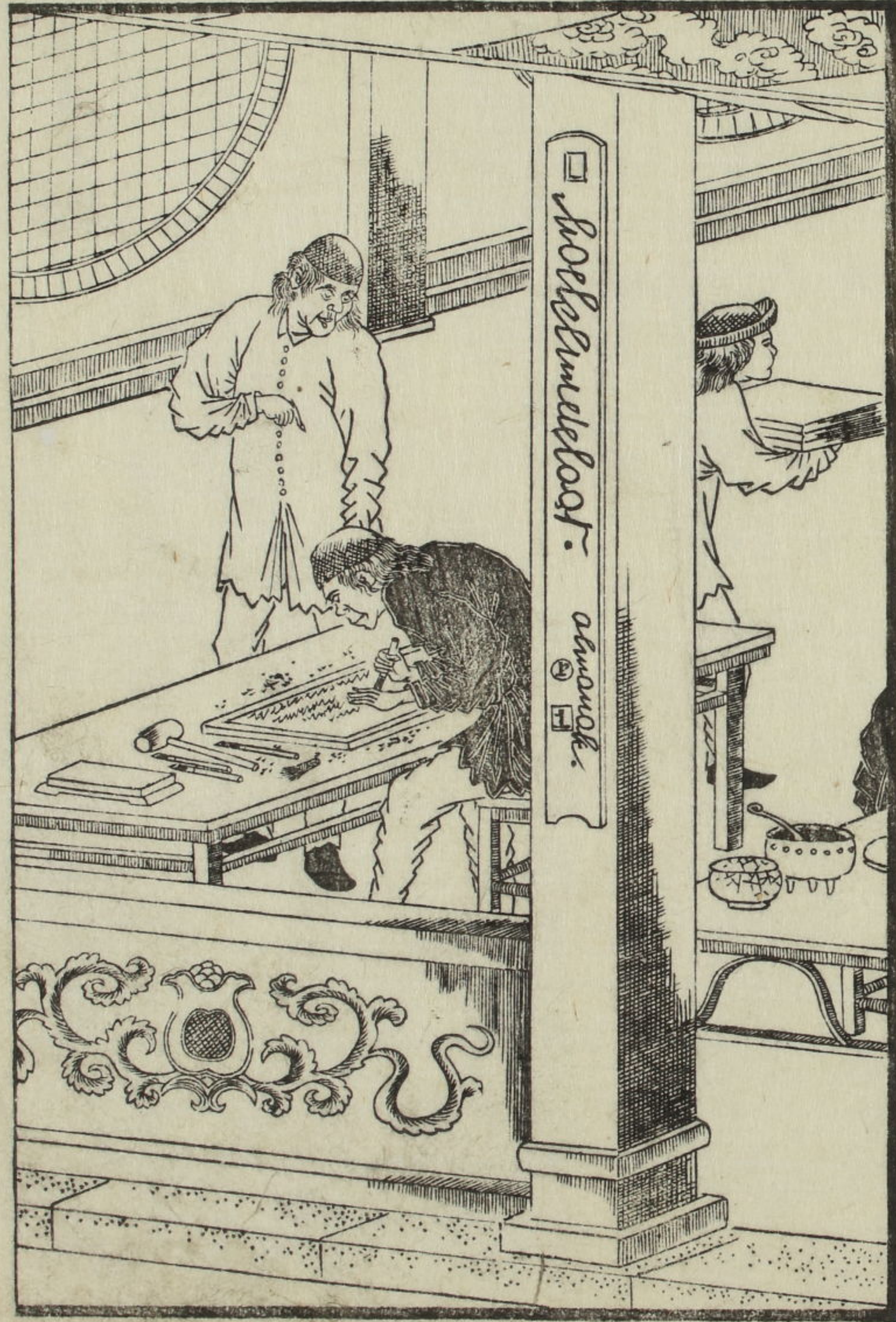
と尊とせむ此外則ち各々文武自ら例を以て以
 て其民を約束するも由る但部例を以て國例を犯
 せし得ば其各府各々自ら例を立て以て治む地は
 因り室を制し惟亦府例を以て部例を犯せし能は
 ざ下縣司に至るも亦之の如し
 一國の首を立て統領と云其權國王の如く各部の首
 と立て首領と云其權中國督撫の如し一部中復中
 部落若干を分ち知府の如し再び小部落若干を分ち
 知縣の如し其國都内六政府を立て六部尚書の如し
 惟工部なくして驛部あり凡公選公舉の權上は由ぞ

下より由る通國水陸の兵事の則ち統領を推て主と為
一兵の遵ひざる者ありまは之と懲を都中六政府の首
必だ統領選擇と聽く副ハ則正者の擇ぶ由る設
外調革降ある皆命と統領は請ふ給文蓋印然る後ち
任は蒞む國內刑獄の事如く察院審判公なるを統領
亦更之と正とへ設く外國と相争ひ外邦和と求
む統領必會議して而後計と定む或ハ本國の使往く
皆統領理むる所なり毎年各省官會議の際統領一年
敢て支各項言行各事と將て出いて衆に示し並本
年各事と行くは亦之と各部官に示し若く各部官散

ざる後復要事あり或ハ例と符せど統領決むること
能くざる者ハ則ち出し示し各官と召し復と至り議
そ有所の條例統領必先自ら遵行するを例の如く禁
むる所の統領亦斷して敢て之と犯さば庶民は異む
るも亦一而後能庶民の服する所と為る各部落に至
る亦例あり其首領初例と立る時亦統領自ら誓ふが
如く即ち部内各事亦統領國內の事の如く府州縣司
皆此に倣ふ惟部府州道阻し且長一縣に居る者或ハ
往返に艱む故に如く事あり會議亦之と縣に商る事
と議する人例三十一歳以上は非ざるは預ることと

得^エぞ常例^{ジヤウレイ}三四月^{サンシツ}と以^モて期^キとを如^モし要事^{ヤウジ}ありまば則^スち
何月^{ナニツキ}と論^{ロン}むるを如^モく毎年^{マイネン}事^{コト}と議^ギを多少^{タビシ}幾^{イツク}次^シ亦^{マダ}定^{ヂヤウ}數^{スウ}
な^レ前期^{ゼンキ}縣官^{ケンカン}示^シし論^{ロン}を某^{ナニ}の日^ヒ某^{ナニ}の所^{トコロ}何事^{ナニノコト}と公議^{コウギ}を
期^キに至^{イタ}り耆老^{キヤウ}衆^{シュウ}又^{マタ}通知^{ツウチ}し各々^{オノオノ}公舉^{コウキョ}せん^ト欲^{ホツ}むる所^{トコロ}
の人^{ヒト}と將^{モツ}て名^ナと紙^シ上^{ウエ}又^{マタ}書^{シヨ}して既^イ内^{ナイ}に置^オく後^{ノチ}既^イと開^{ヒラ}
く人^{ヒト}多く公舉^{コウキョ}する者^{モノ}と以^{モツ}て之^{コノ}を爲^{ナシ}る官^{クワン}と選^{エラ}む人^{ヒト}と
選^{エラ}ぶの時^{トキ}事^{コト}と領^{レウ}する人^{ヒト}亦^{マタ}先^マづ衆^{シュウ}又^{マタ}質^{タビ}を或^{アルヒ}人^{ヒト}の起^キ
對^{タイ}する所^{トコロ}領事^{レウジ}自^{ミツカ}ら裁奪^{サイダツ}を行^{オコ}ふことと請^コふ則^スち領事^{レウジ}
再^{スミ}び衆^{シュウ}又^{マタ}語^{コト}げく曰^{イハ}く如^モし衆^{シュウ}中^{チュウ}吾^ワ選^{エラ}む欲^{ホツ}むる者^{モノ}ありま
ば則^スち手^テと舉^アげ號^{ガウ}となせ若^モし手^テと舉^アるて半^ハ又^{マタ}過^{スガ}る者^{モノ}

ハ則^スち可^カ如^モし未^{イマ}ど半^ハ又^{マタ}過^{スガ}るまば則^スち不可^{フカ}又^{マタ}如^モし都^ト
中府^{チュウフ}中州^{チュウシュウ}中要事^{チュウヤウジ}會議^{クワイギ}ありまば則^スち各縣^{オノオノケン}各選^{オノオノニシラセ}む應^{オウ}むる
人^{ヒト}赴^シき會^{カイ}を事^{コト}と領^{レウ}するまば則^スち衆^{シュウ}又^{マタ}謂^{イハ}て曰^{イハ}く今^{イマ}選^{シラ}む人^{ヒト}
城^{シロ}又^{マタ}往^{ユク}て會議^{クワイギ}を當^{マサ}に何人^{ナニヒト}と住^ダせしむべし衆^{シュウ}亦^{マタ}保^ホ
薦^{セン}の人^{ヒト}と將^{モツ}て名^ナと紙^シ上^{ウエ}又^{マタ}録^{ロク}し既^イと置^オき既^イと啓^キする前^{マエ}
例^{レイ}の如^モし凡^{オノ}そ縣官^{ケンカン}の職^{シヨク}一^{イツク}ハ則^スち選^{シラ}む人^{ヒト}と以^{モツ}て首^{シユ}と爲^ナ
し有^アる所^{トコロ}の縣内^{ケンナイ}一切^{イツク}の諸事^{シヨジ}皆^{ミナ}必^{カナラ}し悉^{シツ}く知^シる即^{スバ}ち其^{ソノ}
管^{カン}する所^{トコロ}又^{マタ}非^ヒざる者^{モノ}亦^{マタ}必^{カナラ}し周^{アハ}く知^シる二^ニハ則^スち縣^{ケン}
内^{ナイ}に在^アるの收餉^{シュウキョウ}必^{カナラ}し悉^{シツ}く縣内^{ケンナイ}人^{ヒト}丁^{テイ}多寡^{タカウ}何人^{ナニヒト}田^{デン}若干^{オコシ}
あり何人^{ナニヒト}地^チあり屋^ヤあり若^シ干^{カン}と知^シる三^{サン}ハ則^スち縣主^{ケンシユ}と



總理と一年收支の各數言行各事登録存摺と苟旦も
漏入漏出を能く其外ハ則ち掲借拖欠偷竊捕
盜濟貧等數人常事に任する非ざる如き者と總
理するにあはば則ち別業と治めしむ常事と
任する者の如きは則ち各々俸禄あり
國中察院三あり都城と管理する者と京察院と云二
三部落と管理する者と巡按察院と云一部半部と管
理する者と分巡察院と云都城に在る者ハ衙門共
七人一正六副毎年正月齊く集り會し各案を審よ
る一次如し事に因て至らざる者四人あまハ亦審よ

そべー四人及バざるとバ審よる能く都城の
内若し例に遵はざる者あまハ亦京察院之と審りに
そ若し巡按察院事と審よし正しかりざるハ其京察
院巡按察院に轉告する小任を衙門七ツあり其一緬
新韓賽馬沙諸些羅底島四部と管を其二千尼底吉花
滿二部及び新約基の南半部と管を其三新遮些部及
び邊西耳文の東半部と管を其四馬理蘭底拉華二部
と管を其五北駕羅連及び費治彌亞の東半部と管を
其六南駕羅連磋治亞二部と管を其七建大基典尼西
阿嘻阿三部と管を惟亞刺罷麻累斯安美士細比美蕪

理伊理奈引底安美是干新約基の北邊西耳文の西費
治彌亜の西等の部人數幾もな故分巡察院と以
て之と兼理を惟巡察院事と審より時毎又如一
京察院在るも無きハ則ち審より能く若
要事あり則ち必二巡察ありつて後ち可も又毎
年齊しく集り二次審判を如し此數部内人の他の巡
按察院屬する所の地又在て法と犯をたまは即ち
巡察院又由り之と審より分巡察院衙門に至てハ
共又三十有三每院内一分巡察院毎年審事四次若
要事あり則ち定次無一倘一審公ならざるハ亦巡

按察院又轉告をべ一此皆國察院なり其外數部察院
あり部内法と犯せば則部の察院之と審より府州も
亦是の如し凡そ察院内各科房各工役あり以差遣と
聽く凡原告告らる愚蠢の者たまは則ち人あり代て書
狀と爲り並又同く堂又上り代り訴ふ人犯せば既又
齊しく察院兼ね本地衿者と擇び以て審と助く衿者
ハ我國の吟味衿者ありたまは則ち十二人多
與力の類ひをべ一衿者ありたまは則ち十二人多
々まハ則ち二十四人本犯の親友兄弟と除く外即ち先
此事あると知る者も亦預るも能く既又審して後
出て會議と遂又曲直と定む衆衿者情由と將て寫明

一送り察院又呈して退く察院其是非と觀て例と照
 して罪と定む每縣中も亦地保幾人あり小事と勤和
 と國內一律例院と立つ室數十餘間あり間毎又一師
 教と掌るあり凡そ院又進と習讀する者三年と以て
 滿とと皆規條律例と訓告一人として遵守するると
 知らしむ
 國中法と犯その大方者への反叛殺人強劫放火等と
 為る國と立ち以來反叛と告る者未ど之ありど人と
 殺その毎年多少定らど強劫の毎年終又無ととあり
 ぐ放火の則ち二十六部中毎年五六次又過を其強

海一十七

女姦の毎年亦二三次あり情姦も亦時又之あり其餘或
 の名と冒し偽造或の竊盜非と爲し或の相門相争或
 の醉後凶と逞ふし今馬沙諸些一部と以て之と言ひ
 其法と犯して監禁する者清の道光元年我國の文政
 の則ち七十一人あり二年の則ち八十四人三年の則
 ち九十一人四年の則ち一百零七人五年の則ち八十
 六人六年の則ち九十六人七年の則ち八十一人八年
 の則ち八十人九年の則ち百零四人十年の則ち七十九
 人十一年の則ち百有十五人十二年の則ち七十一人
 十三年の則ち七十六人十四年の則ち百有十九人は

年内竊盜トシニ者モ八十八人名ナと冒ヲ偽イり造ツる者モ十人
強劫オヒ者モ四人放火ヒツケ者モ一人爭鬪アウ者モ五人情
姦ヌコ者モ六人強姦ガウ者モ二人脱逃カケして復捕獲マタ者モ
者一人人を殺コロ者二人以上各年監犯十四年を以て
截計サイケを除審ジヨの後監外イ又放ハナち出イダる尚ナラ一百七十七人と
存ソを刑法ケイハ則ち三あり一ハ絞死カウ二ハ則ち監禁カン三ハ
則ち罰贖バン並ナ又梟首クウ充軍チウ拷打カウ等トウの刑ケイを凡ソそ反叛ハン海
盜トウハ皆絞死カウを人と殺コロ強姦ガウ強劫オヒ放火ヒツケ等トウ之ノ如コト或
ハ永ナカく監禁カン其餘ソノ或ハ監禁カン或ハ罰金バツ情ケイ又隨ニ輕重ケイ
と各省各府皆監獄カンあり監内カン左右上下皆大石オウと用ヒ

て之コレと爲ナる或ハ數人スニ一房イチ或ハ一人イチ一房イチ皆極キめて潔カ
淨ジヤウ亦マ小窓コありて風カゼと通トウる房外バウ四圍イ欄杆ランあり餘地ヨ以モ
て散步サンを管カン監官カン其衣食シと體恤タイ勸戒カン者モ又善ゼン
言ゲンと以て約束ヤク者モ又事業ジギヤクと以てを今計イマる又清シヨウの
道光十五年ダウ我國ワの天保テン馬沙諸些バ監内カン犯人ハ作ツクる所トコロの
工銀管コウ監官カン教師キウ並ナ又看門カン兵丁ヘイ等トウの工食コウ並ナ又各犯オウ
食用シヨウる所トコロと除ホく外尚銀ホ七千二百九十六圓シチと存ソる盡ク
く公コウ又撥充ハツを
新國シンの貧ヒンと濟スふと未イど貧ヒンる者モどして預め其貧ヒンを防フ
ぐ既ス又貧ヒンる者モ則ち其愈貧ヒンを防フぐ其火燬ヒと防フぐ如コト

さい則ち多く磚石を以て登築し並に水車水筒と設
 け以て不虞に備ふ電綫類を防ぐハ則ち一長鐵杆
 と門を立て以て之と拒ぐ電鐵杆を見ま即ち項より
 旋繞して杆下に至て去る貧人収作備工して倘一人
 の收用をそと無まば則ち本縣に濟貧院と設けて以
 て之と居く各々分つて事業を以てを得所の項敷を
 全ふして官に入る倘子女と生めば則ち塾師あり
 て之と教ゆ府省も亦然り會城村族に至り一馬食流
 離の人あると許さば然る先づ一濟貧の法と立る
 又非ざるハ又安ぞ能く人の食と乞と禁せん凡そ國

と有つ者室々々意を留むべき所なり
 毎郷學館一所と設く郷中富む者ハ銀と科一師と延
 一郷の子弟と教ゆ若し郷中富者なるとは則ち會
 城中官員處に在て借助を其學に就くの童毎夕家
 回り男女皆以て師とををべし女師束脩銀の如きハ
 毎月六員より十員に至ると過む女童は讀書を教る
 外並に刺繡と教ゆ男師ハ則ち二三十員等一からん
 亦専ら一家に教る者あり又縣中學館あり有無多少
 定らば惟郷學館貧富を抱らば縣館ハ束脩なき者ハ
 入るべし此項を以て師と延く故に因るなり其

館本處の人縣官より稟して而後建つ或は縣官公同建
造する者も亦之あり其中學ぶ所之を郷學と比する
バ又略大なり更又會城中の學館あり多少定まり
城中の富者之と建つ或は會と設けて會項と以て之
と建つ或は官員之と助く館中條例幾人と擇んで之
と議を並又其事を司る然して後遍く同學を告ぐ學
者毎年考試一場中者を取て館内に入る中國の秀才
の如き習學四年を以て例と爲を律戒を遵はば四年
と待ぶるも亦以て之と逐ふべし既又習四年を過ば
則ち中國の舉人の如く館と散らる後或は官となる

士と爲一農と爲一工と爲一商と爲一各々其事と
司る別又大學館あり惟已舉又中る者進むと許を學
ぶ所三あり一は聖文二は醫治三は律例規條二ツの
兼得べし又三年を以て期とを期満せば則ち中
國の進士の如く會城學館每部一二所等しくは三
四所等しくは惟部を進む者通融計算約するは八
九十所每所師と延と五位より三十位に至る等しく
らば長と截ち短と補ふ每所又約七十位其師毎年束
脩銀一千より三千餘圓に至る等しくは業を受る
者毎年每位束脩銀一二百圓と送る等しくは每館

の徒二三百定まらば通融牽算百四五十人又過半分
折して之と言へば聖文の大學館國內約三四十所毎
所又師四五位業と受る者約七八十人又醫治の大學
館約三四十所毎所又師より者約七位其徒數十
人律例と習ふの館ハ師徒の多寡亦醫館と大同あり
て小異あり

新國の器械中華と異なり但船隻の桅帆槳櫓のとな
らざ即ち屋と築き樓と建て鋪設け以て兵器又及ぶ
皆然り火礮能く彈子數十斤と用ゆ手鎗の口則ち小
劍但弓箭長矛藤牌なきの國人皆音樂歌唱と好む

故に吹彈礮各器あり童蒙ハ即ち樂師之と教ゆ又
畫ハ地理山水人物花卉鳥獸の工とあり又其次ハ則
華屋と建て高橋と築く等の工或ハ能く創新の巧と
出をあり火輪船及び水火布と織るの類の如きハ則
地方官之と獎勵を
新國仁會と立て以て監よりあるの犯を濟ふ昔ハ監内
弊端甚ど衆一監より出るの犯惡と爲を前ハ甚一
是より由り會中遂に各監の規模と改め二十六部の監
内又分布一善惡兩途と分ち善惡ハ寬廣の所又居
惡惡ハ淺狹の所又居く俱に相見と能く前ハ收監

そる者事業る一今ハ則ち一日も閑るること能はん
並前書あり礼拜の日又於て誦せしむ故又今の法
と犯し收監する者監と出る後即ち痛く前非と改め
且此より前監中費を所極めて多し今犯人工と作
一生と營を故又毎年支と除く外及て餘費あり又聾
盲啞ハ原と無用又屬を今國內仁會と立て館と設け
訓習し聾啞の如きハ亦手と以て音と調して之と教
ゆ音者ハ即ち凸字書あり他として手と以て揣摩し
て讀しむ幼みして恬恃と失ふ者又至ても亦嬰と育
そるの院あり若酒又酔ひ性と乱るハ以て強て禁し

難し乃ち一節飲會館と設け内ハ一簿と藏し飲と戒
ひり者の姓名と登せ戒と願ふ戒と願ふ各其便又
從ふ既又戒館又進むの後ハ則ち再び犯せし能く
共又各部と計り此館約そ四五千間あり其戒酒簿ふ
登る者約そ二百萬人其造酒の舗變じて他項の貿易
と爲る者約そ四五千間酒舗賣人と將て別又生理を
尋る者亦約そ七八千間故又酒費日又少く飲と戒る
の人日又多し又城中醫生七十五人と設け訪て酒の
損益と察を今ハ則ち皆其益をくして損ありと知る
故又戒して飲ざる者大半水手の輩又至り多くハ是

是貧乏の人故^{ヒト}又會内亦之^{オモ}と濟ふ並^{ナラニ}又其妻兒^{メノメノ}又及ぶ
凡^{オヨ}そ師と延^ヒこ訓習^シをり又力なき者亦院と設け師と
延^ヒこ以て之と訓^シゆ國人^{クニタミ}礼拜^{ライハイ}の日^ヒに於てハ皆工^{ミナコウ}と為
ふ故^ユ又一會所^{オモ}と設け^マ礼拜^{ライハイ}の日^ヒ又逢て人^{ヒト}と教^{オシ}ゆ内
書^{シヨ}と藏^シるるを極^{キハ}めて多^{オホ}し如^モし在^{アラ}ざる者亦借^カりて家
又^{カハ}回り自ら^{ミツカ}習^{ナラ}ふべし礼拜^{ライハイ}の日^ヒ又至^{イタ}り復^{マタ}送り回^{カハ}そ又
學館^{ガクラン}又至^{イタ}り誦習^{シヨウシヨウ}せざる者亦師^シと延^ヒこ家^{イエ}又至^{イタ}りて
教^{オシ}ゆ亦小書^{オモ}と刊^{カン}刷^{サツ}し人^{ヒト}又善^{セシ}と學^{マナ}ぶ志^シひる者^{モノ}又分^{ブン}贈^{ソウ}
るあり亦一院^{オモ}あり專^{セン}ら聖書^{セイショ}と刊^{カン}し出^イし售^ウる如^{カド}し
買^{カフ}ふ力^{チカラ}なき者^{モノ}亦^{オモ}之^{コト}を贈^{オク}るべし別^{バツ}又一會^{オモ}あり名^ナ

けく勸和會^{ケンワクワイ}と云^{イフ}如^モし兩人^{リヤウニ}相争^{アヒアラウ}ハ或^{アル}ハ隣省^{リンセイ}と相闘^{アヒタカ}ふ
て兩國^{リヤウコクニ}和^ワせざる者^{モノ}之^{コト}と勸^スむ每會^{マイクワイ}中^{チュウ}用^{モチ}ゆる所^{トコロ}多^{オホ}きハ
毎年^{マイネン}二十萬^{ニジュウマン}又過^{スギ}ど少^{オホ}き者^{モノ}數^{スウ}百圓^{ヒャクエン}又下^{シタ}らば
開闢^{カイヒヤク}の始^{ハジ}め未^{イマ}ど人類^{ジンルイ}ありざる時^{トキ}上帝^{シヤウテイ}既^{スデ}又一人^{ヒト}と造^{ツク}
り萬物^{マンブツ}の主^{ヌシ}となす又一女子^{オウシ}と立^{タテ}て以^{モツ}て之^{コト}又配^{ハイ}を夫^{ウツ}
婦^{メノ}の礼^{レイ}此^{コト}より始^{ハジ}む歷代^{レイダイ}相傳^{アイデン}へて異^{コト}なることあり但^タ妻^{メノ}
と立^{タテ}及^{オヨ}び少^{オホ}年^{ネン}預^イめ聘^{ヘイ}するの例^{レイ}を一年^{イチネン}十五^{ジュウゴ}以上^{イジヤウ}なる
者^{モノ}淑女^{シヨウメノ}と訪^{ハク}求^{キウ}し若^モし親^シ誼^ギを非^{アラ}ざるハ則^{スズ}ち府^フ又踵^{イタ}り
其^{ソノ}父^フ兄^{ケイ}又謁^{ツク}げ好^{ヨシ}むと結^{ムス}び往來^{ワウライ}すること三五載^{サンゴサイ}彼此^{ヘチ}
賢^{ケン}愚^ゴ皆^{ミナ}已^メよ之^{コト}と知^シる或^{アル}ハ面^{オモ}より佳^{カキ}期^キと訂^{ツク}して或^{アル}ハ

各父母は告げ並に雁と奠と輪と遊へ及び聘定の礼
あり娶の日男女堂より入り手と携へ一官或は族正等
あり二人名を書して之を蓋ふは鈴記印信と以て之
其後丁冊内より報し夫婦姓名と列し自後必だ終身偕
又老ふ國中二十六部君臣の名を推上下の分あり
國領部領府領縣領の同トからざる各首領起居飲食
衣服亦平民と異ならず也但事權之と人又属て人
皆之と敬するの之其兄弟父子朋友の三倫は中國と
畧同ト

新國衣服の制帽の高さ七八寸に至る等一からり或

ハ黒絨灰色絨と以て之を爲る其矮なる者或は圓或
ハ六角八角帽前破簷一片あり以て日光を遮る常又
帽帶ありて之を繫ぐ冬寒ハ則ち法蘭仁纏と以て内
衣と爲る短小にして領外一汗衫と加ふ四圍身
小纏ふ甚だ寛大なり其領高く出で領下至る一頸
巾あり之を繫ぐ其外一背心と蓋ふ前夾く後へ單へ
高く頸に至る膊下ハ則ち法蘭仁纏と用ひて短小の
袴と爲る外ハ則ち大袴と蓋ふ汗衫裏も前後兩
鈕ありて扣を十字と以て交々帯又加ふ膊と過扣後
に手の一長衫と蓋ふ四圍身と纏ふ先滑紋を袖長

掌に至る領包枕後に至る前の長と背心の如く後
 る長と脛に至る羊毛鐘と以て襪と為る長と膝と過
 ど鞋の牛皮と以て之と為る底面皆然り但底の厚さ
 ハ五層の過を薄きハ則ち一層面亦帶あり之と繋ぐ
 靴亦長と膝と過を底の厚さ者多し上下皆牛皮と用
 ゆ穿つ時大褲脚と以て之と蓋ふ有所の衣服鈕扣皆
 開く如正面又あり左右又開くを以て飲食ハ則ち毎
 日三餐を早膳ハ或ハ飯或ハ麪及び肉亦牛奶雞蛋牛
 油茶架菲水煎或ハ白漆水沖隔渣七點鐘より十點
 に至り各々其便又隨ふ惟多食せど名けく早餐と云

一點鐘に至り五點の後及び食する所ハ則ち鶏豚
 魚鴨牛羊多く燔炙と用ひ自ら割て食ふ並又生菜糖
 菓牛奶雞蛋等の物或ハ茶或ハ酒合家一檯と同ふを
 檯面布と用て舖る蓋ふ後各物と其上又置く男女各
 一便人毎又一碟と以て物と盛り箸と用るとり惟
 刀又と用ふ調羹等ハ人の腸飽ふ隨ふ故又大餐と名
 く晚上六點鐘より九點に至り等しかりど食する所
 の者ハ早餐と同じ此日日用飲食の常規なり外又出
 る又至り則ち車馬或ハ一車一馬より四馬に至る等
 しくり毎年年月中並又節氣なり毎目亦吉凶なり惟

七日一禮拜するの之餘ハ中國と異なるもの喪
始て死らざる則一人之沐浴と為るあり止一汗衫
と穿つ手と歛して掌と合一棺内ニ置く三五日と逾
て葬る山地内ハ或ハ石と以鐵と以錫と以て之
と圍む然る後棺と放く親朋葬と送り素服白と用ひ
どして黒と用ゆ墳の上皆石碑あり碑上亡者の生
辰死忌と録を又石欄杆と繚ら牛羊踐踏と防ぐ
原志の序又曰く予美理哥國の馬沙諸部中又生
地地球と以て之と格を則ち中華と上下相對を一
天一淵と謂べ今年三十有七竟又海と渡り地と

繞りて中華及ぶと得英吉利法蘭西荷蘭西班牙
亞利末加暹羅日本中華等國の土各國の文藝と
歴見を豈奇ならずや回憶小年本國ニ在り農と舎
て儒と業と大學の堂又登る者三年始めて會城
の書院又進で肄業各國古今文史地理天文律例
規條四時の土産又於る悉く博覽研求以て毎歲院
と掌り場又臨し彙考又應せん欲し等と踰る
と得るもの内又在る四年文給領又憑る是又由
て出て大院又進る古聖の經文と習ひ又幸又等
上る三年別て文憑と換ゆ時又年二十有八家又内

顧るるをく遂は異郷の風俗と遊覽し兼る予
 國見聞する所を以て異土に傳播せんと欲を幸に
 葛留巴新埠麻六用新嘉坡に於て唐人と逢ふこと
 得て畧華書と領し七八載歎らくハ華人遠遊と好
 まん我西國の光采規模に至り查して聞見ゆ
 竟は海外更は九州あると知らざり或ハ上帝の予ガ
 心と啓さ空く之と播しめ四海と聯し一家と為さ
 志めんとも固陋と揣るん創め漢字地球圖及び美
 理哥合省國全圖と為る又事迹風俗と以て類と分
 ち畧書を百年ありて而後中士も入る或ハ下觀と

海三十八

耻る者あり其將は節と撃ち歎喜せんとい抑雜
 て之を推焼するを拉ぐ然りと雖ども馳て域外を
 觀の士必は方隅自封して我を笑はざま道光十八
 年歲次戊戌の孟夏高理文新嘉坡の堅夏書院に於
 て題を



新國圖誌通解卷之二終

